

感染症情報 7月4日～10日

府下小児科199医療機関（堺市19）から

①ヘルパンギーナ	1161例	（堺市 81例）
②感染性胃腸炎	994例	（堺市 31例）
③溶連菌感染症	530例	（堺市 21例）
④おたふくかぜ	355例	（堺市 30例）
⑤突発性発疹	107例	（堺市 5例）

が報告された。

感染症報告数は全体として前週より1%の微増、ヘルパンギーナの増加が続き、第1位に浮上、第2位が感染性胃腸炎、第3位に溶連菌感染症が入った。ヘルパンギーナは前週に引き続き、22%と大幅に増加した。乳幼児、特に1、2歳児に多く、高熱とよだれ、口内炎による痛みのため、食欲が減退するが、熱は2、3日で収まる。泉北でも流行している保育園、こども園がある。熱が収まって1日経過し、食欲があれば登園は可能である。おたふくかぜは前週より再び8%増加したが、来週から夏休みに入るので減少していくものと思われる。髄膜炎の合併が5%程度と多く、1000人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが2回のワクチン接種をしておきたい。はしか、風疹の報告はなかった。